

JA三重中央 美杉清流米部会（三重県津市）

JGAP 米(粳、玄米、精米) 2019年団体認証取得

地域の概況等

- 山間地で小規模な経営面積の農家が多く、高齢化が進み、担い手への農地集積が進まない等の条件不利地
- 当部会は、地域を流れる河川を農業で汚したくないという願いのもと、2003年から化学肥料を使用しない特別栽培米の取組を開始

構成員：23名

面積：20ha



津市長を表敬する美杉清流米部会員とJA職員の皆さん

▼GAPに取組んだきっかけ

JAの助言もあり、

- 部会全体で取組むことでの活性化
- 労働安全や環境保全の取組の明確化
- 管理をルール化・書面等での見える化をすることによって経営や農地を引継ぐ準備等の有効なツールであると判断し取組を開始

▼2段階での団体認証取組

【担い手の先行取得とそれをもとにした部会全体での取得】

- 年齢や経営規模の異なる多様な部会員の意見がある中、4名の担い手による先行取得と、それをもとにした部会員全体の1年間の勉強会を通じて、部会内の意思統一が図られた上での2段階での団体認証取得
- ⇒ 産地全体での団体認証取得を目指す産地にとっての、モデル的な事例



GAP研修の様子



生き物調査の様子

▼団体認証における役割分担と効果

【JAによる団体事務局の運営と農業者の負担軽減】

- JAが事務局を担い、部会員にとって分かりやすいGAPのマニュアルを作成
- ⇒ 高齢者の多い個々の部会員の負担を軽減

▼GAPの取組と効果

【関係機関の協力をもとにした部会員全体での取組と効果】

- 個々の農場のリスクをJAがとりまとめ、部会全体で評価し共有
- ⇒ 部会全体での安全意識の向上
- 化学肥料を使用しない特別栽培において、事務局であるJAが部会全体のデータを関係機関の協力をもとに検討した結果を営農指導に活用し、統一した技術を確立
- ⇒ 初期生育の安定や1等米比率の向上(収量と品質の安定化)
- 組織体制を整理し、リスクの高い農薬使用等の管理をルール化・マニュアル化することで部会の方針やルールの明確化
- ⇒ 経営やほ場の継承等に役立ち、認証取得後3名の新規部会員の参画を実現



中山間地等の条件不利地で高齢化が進展する産地において、GAPを通じて産地の維持を図る方策を示した優良事例